

Bouquet

No.98 2026.02

ここに
来た女の子たちを受け止め、
一緒に悩み、寄り添う姿勢で臨んでいきたい



■ 特集 ■

あなたの居場所はどこにある
— 孤独な女の子たちに寄り添う支援とは —

福田 愛さん

(公益財団法人プラン・インターナショナル・
ジャパン 国内支援事業グループリーダー) に
インタビュー

■ 輝く人にインタビュー in 中央区 ■

萩塚康宏さん

(株式会社BOTAO代表取締役)

住谷栄子さん

(子どもの創造アトリエartco運営責任者)



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を
支援しています

中央区男女共同参画ニュース「Bouquet (ブーケ)」は男女平等センターや区の施設などで配布しています

福田 愛さんにインタビュー

あなたの居場所はどこにある

— 孤独な女の子たちに寄り添う支援とは —

家に居場所・相談できる人がいないなど、孤独を感じる若い女性たちが犯罪被害やトラブルに巻き込まれることが社会問題となっています。女の子が安心して安全に過ごせる居場所「わたカフェ」のソーシャルワーカーである福田愛さんにお話を伺いました。

女の子の声に耳を傾ける 「居場所」をオープン

— 「わたカフェ」はどんなところでしょうか

「わたカフェ」は、15歳から24歳までの女の子が安心して安全に過ごせる居場所です。池袋駅から徒歩8分のところにあります。池袋を選んだのは、さまざまな鉄道路線が集中するターミナル駅でアクセスがよいこと、若者支援の団体はあっても新宿や渋谷のように若い女性の支援に特化した団体がないこと、大学や専門学校が多いことなどの理由があります。

「わたカフェ」は、一人ひとりが尊重され、安心して過ごせるように、利用ガイドを定めています。初回だけは利用登録が必要ですが、その日に何をしたいかを利用者カードに書けば、ひとりでのんびり過ごしても、本を読んでも、おしゃべりするの自由です。社会福

社士、精神保健福祉士、臨床心理士、助産師など、専門の資格を持ったスタッフに個室で相談することもできますし、食料や生理用品、日用品など必要なものを自分で選んで帰って帰ることもできます。全て無料です。

「わたカフェ」を運営しているのは世界80カ国以上で子どもたちや女の子たちを支援している国際NGOプラン・インターナショナルです。「わたカフェ」を立ち上げた契機は東日本大震災でした。震災での心理的なケアに至り、国内での支援に需要があることを学びました。また、コロナ禍の影響では、仕事を失う人が相次ぎ、DVの相談件数が1.5倍に増えるなど、心理的ケアの必要性を感じたのです。社会を揺るがす大きな問題が起きたとき、女性や子どもにしかわせがいくのは海外でも日本でも同じだと気付いたからです。

女の子が安心して過ごせる居場所「わたカ



「わたカフェ」ってどんなところ？

15歳～24歳の女の子が安心して安全に過ごせる居場所です。あなたの悩みや考えをなんでも相談できます。ソーシャルワーカー、心理士、助産師があなたと一緒に考えます。オンラインのチャット相談も受け付けています。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが運営しています。



詳しくはこちらをご覧ください。



ふくだ めぐみ
福田 愛

公益財団法人プラン・インターナショナル・
ジャパン 国内支援事業グループ リーダー
更生保護施設、子ども家庭支援センター、若
年女性シェルターにて、ソーシャルワーカー
として従事。2020年から現職。社会福祉
士、精神保健福祉士。



「フェ」をパイロット事業として活動を始め、
そこから見えてきたのは「女の子たちは孤独
で居場所がない、誰かとつながりたいのにつ
ながれない」という現実です。

最近、子どもの居場所づくりが行われて
いますが、児童福祉法上の対象年齢を超え
た18歳以上の人に対する行政や民間の社会
資源は乏しく、支援が届きにくい状況にあ
ります。「わたカフェ」の利用者の多くは
大学生を中心とし、SNSのクチコミから
ここに辿り着く子もいますし、行政の児童
福祉とつながっていても18歳を超えると支
援が途切れてしまうため継続的な支援を求
めて来る子もいます。特に高校生世代の早
い段階でこういう場所があることを知って
ほしいです。

「物」の支援に対するニーズの増加 と「心の居場所」の大切さ

—— 生きづらさを抱える若い女性には
どのような支援が必要なのでしょうか

「わたカフェ」が開所した2020年は
コロナ禍で、経済的に困窮する若い女性が増
え、2021年から生活応援品の提供を始
めました。現在、物価高騰の影響もあり、生
活応援品のニーズは増えています。

同時に、定期的な利用者アンケートや日々
の面談を通して利用者の声を丁寧に取り上
げることから聴こえてくるのは「心の居場所」の
重要性です。利用者の生活環境は生活困窮家

庭もあれば裕福な家庭もあるなどさまざまで
すが、共通しているのは孤独感、理想と現実
の間で揺れ動く葛藤です。女の子たちの多く
が「自分らしく、素直でいられること」を求
めています。親や先生の前では「ちゃんと
した自分」を演じなければならぬと感じて
います。そのもやもや感が積み重なり、希死
念慮や自傷といった深刻な問題につながるこ
ともあります。

また、性別役割意識が生きづらさにつな
がっていると感ずることもあります。今でも
「女の子は大学に行かなくてもいい」と言わ
れ、家族や学校の先生を説得して、どうにか
進学する子もいます。その子たちが、ちょっ
としたつまづきや不安を持って、反対され
て進学したため、周囲に相談することをため
らうような事例もあります。

だからこそ、気取らずに過ごせるガス抜き
の場や、息苦しさを解消できる居場所の提供
が必要です。「わたカフェ」は、「ここに来れ
ば安心できる」「誰かが自分を受け止めてく
れる」という感覚を届けることを大切にして
います。

見返りを求められない安心感と、 専門職が支える安全な居場所

—— 「心の居場所」の欠如が生む性の問題
にどのように応えていくのでしょうか

若い女性が孤独感や依存的な気持ちから男性
とのつながりを求め、望まない妊娠に至ること

は決して珍しくありません。例えばSNSで「今夜行くところがない」と発信すると、見知らぬ男性から声を掛けられ、その夜を過ごす場所を提供する見返りとして体の関係を求められることがあります。その瞬間は誰かに必要とされていると精神面で満たされても後になって罪悪感や後悔に苦しむ人も少なくなく、心の傷が長く残ることもあります。体の仕組みを十分に理解していない子も多く、ルッキズム（外見至上主義）や「周囲からどう見られるか」という不安が性の問題と深く結びついています。自己肯定感が低ければ相手の要求を受け入れてしまいがちで、その結果、自分を傷つける選択につながることもあります。

「わたカフェ」は「見返りを求められない安心感」と「専門職が常にいる安全な居場所」を提供するとともに、性的同意の重要性を伝え、自己肯定感を育てる性教育にも取り組んでいます。性の悩みは非常にセンシティブで、家族や学校の先生には相談しづらいと感じる子が多いのが現実です。このため、堅苦しくない雰囲気と守秘義務を大切にし、安心して話せる環境を整えています。チャット相談では全国から声が寄せられ、性に関する悩みも数多く届いています。安心して相談できる環境や匿名で相談できる仕組みは、大きな安心につながり、心の負担を軽くするきっかけとなっているようです。

「わたカフェ」に来る子の中には、孤独で自信がなく、自己肯定感の低い子もいるので、私たちは自信を持つことで選択肢を広げてもらうと、その子のポジティブな面を引き出せるよ



スタッフからのメッセージ

- まな**（社会福祉士、保育士）写真左
若年女性が社会から取り残されることなく、豊かで健やかな生活を送れるよう、一人ひとりに寄り添う支援を心掛けてまいりました。本冊子をご覧いただき、私達の活動に少しでも関心を寄せていただければ幸いです。
- めぐ**（社会福祉士、精神保健福祉士）写真中
大人だって完璧ではないし、いくつも失敗を重ねて、悩んでいます。10代、20代の方もいるような悩みを抱えているのは自然なことです。ちょっとした悩みでも、よかったらお話しに来て下さいね。
- ゆめ**（社会福祉士、看護師）写真右
社会人になる前の準備の期間にいる子また社会に出て間もない女の子たちに向けて、より満足がいく自己決定ができるようにお手伝いできたらと考えています。利用者世代の方、ぜひお気軽にお越しください！その世代を乗り越えた方々も、ぜひ温かく見守っていただけると幸いです。



食べ物・生理用品・日用品など、必要な物を自分で選んで持ち帰ることができます。写真提供：プラン・インターナショナル・ジャパン

うな支援を心掛けています。自分の弱い面や苦手な面を知ること、**「自分を守る力」**を備えて、対策できるようにすることを伝えていきます。それに強さと弱さを併せ持つことで、人間性も豊かになると思っています。

行政と民間がつながり、支え合う居場所へ

居場所を求める若い女性たちに、地域社会はどう寄り添えるのでしょうか

若い女性たちが安心して相談できる場を整え、生活を支えるには、若者、子ども、外国籍の人などを支援している民間団体がそれぞれの強みを発揮しながら連携し、行政の支援につなげていくことが不可欠です。「わたカフェ」には社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、助産師といった専門的な資格を持つスタッフがいますが、行政や地域の団体などと顔の見える

関係をつくって連携し、支援を充実させたいと考えています。女の子たちの声を届けるパイプ役として「わたカフェ」のスタッフが行政や地域の支援団体が集まるプラットフォームに参加し、課題を持ち寄り、連携を図り、利用者に必要な社会資源をつなぐ関係性づくりをしています。また、「わたカフェ」の活動に賛同して協力してくれる人を増やすために、利用者アンケートをまとめた報告書を制作し、ホームページで発信したり、年間約2000件の視察を受け入れたりするなど、活動を広く知ってもらうことにも取り組んでいます。

地域に住んでいる人たちに期待することは、必要に応じて若い女性たちに声を掛け、「わたカフェ」のような安心して安全に過ごせる居場所、信頼できる相談の場があるという情報を伝えていただくことです。私たちは、ここに来た女の子たちと一緒に悩み、寄り添う姿勢で臨んでいきたいと思っています。

データで見る若年女性の困難

過去に経験した困難

10代の半数以上が「理由はわからないが自身の気分の浮き沈みがあり、辛い」、3割以上が「人との関わりがなく、孤独、孤立している」と感じています。

(%)

	理由はわからないが自身の気分の浮き沈みがあり、辛い	大学、SNS、職場等で他者との関係がうまくいっていない	人との関わりがなく、孤独、孤立していると感じる	家族（親や子など）やパートナーから大声でどなられる、長時間無視し続けられる、電話やメールを監視・制限される	家族（親や子など）やパートナーから殴られたり、蹴られたり、物を投げつけられている
全体 (N=1,000)	29.6	26.0	18.4	7.8	6.6
10代 (n=122)	51.6	32.0	32.8	10.7	7.4
20代 (n=143)	34.3	32.9	23.1	5.6	6.3
30代 (n=117)	41.9	41.9	28.2	6.8	8.5
40代 (n=124)	36.3	36.3	25.0	11.3	9.7
50代 (n=140)	25.7	25.0	13.6	11.4	6.4
60代 (n=117)	23.9	19.7	13.7	9.4	9.4
70代 (n=134)	12.7	8.2	6.7	3.7	2.2
80代 (n=103)	8.7	10.7	2.9	2.9	2.9

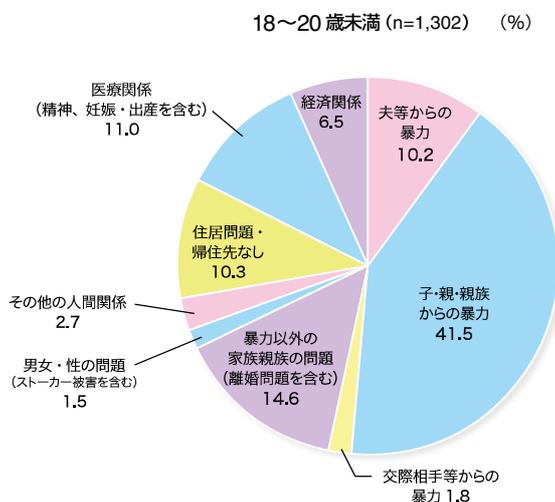
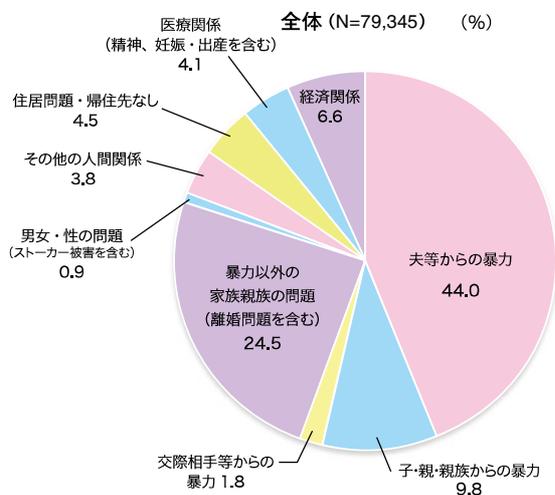
※「女性の困難な経験に関する実態調査」(2025年1月)より作成。PwCコンサルティング合同会社「プラットフォーム構築事業運営事務局」が全国の10代～80代の女性1,000名を対象としてインターネット調査を実施。■は全体より10ポイント以上高い結果を表している。

資料：女性支援ポータルサイト「あなたのミカタ」(厚生労働省) <https://anata-no-mikata.mhlw.go.jp/>より作成

全国の女性相談センターおよび女性相談支援員が受け付けた

来所相談の内容 (令和5年度)

18歳～20歳未満では「子・親・親族からの暴力」「医療関係(精神、妊娠・出産を含む)」「住居問題・帰宅先なし」の占める割合が全体より高くなっています。



厚生労働省女性支援室調べ
資料：「困難な問題を抱える女性への支援について」(令和7年6月 厚生労働省社会・援護局地域福祉課女性支援室)より作成

気持ちに寄り添い、話を聞いてくれる場などの情報

#8778 はなそうなやみ (厚生労働省)

各都道府県の女性相談支援センターにつながる電話番号です。DV、性暴力、お金、予期せぬ妊娠など、女性のさまざまな困難に寄り添います。

あなたのミカタ (厚生労働省)

DVや性暴力といった困難な問題を抱え、「私の悩みは誰にもわかってもらえない」「自分さえ我慢すれば・・・」と悩んでいる人に向けて、厚生労働省が開設した女性支援ポータルサイトです。支援や相談の窓口、コラム・インタビューなどの情報を提供しています。



きみまも@歌舞伎町 (東京都)

さまざまな悩みを抱える青少年・若者が歌舞伎町周辺で発生している犯罪やトラブルに巻き込まれないよう、東京都が開設した総合相談窓口です。社会福祉士等の資格を有する相談員が一人一人に寄り添った支援を行います。軽食、無料Wi-Fi、スマートフォン充電器の設置など、気軽に立ち寄り、安心して利用できる環境を用意しています。匿名でも利用できます。



「自分らしく表現すること」 を楽しもう

はぎつか やすひろ
萩塚 康宏さん
(株式会社 BOTAO 代表取締役)

浜町生まれ・浜町育ち。父が創業したアクセサリ製造・販売会社を引き継ぎ、2007年にWebプロモーションなどの事業を拡大。2016年「子どもの創造アトリエartco」を開設。

すみ や えい こ
住谷 栄子さん
(子どもの創造アトリエ artco 運営責任者)

株式会社BOTAOでデザイナーをしながら2008年からアートワークセラピストとして活動開始。(財)生涯学習開発財団認定アートワークセラピスト。



会社の扉を開けると、そこには子どもたちの創造力にあふれたアートな空間が広がっていました。「自分らしく表現すること」の大切さについて、お話を伺いました。

「artco」とは？

萩塚さん artcoはアートワークセラピーの手法を生かした、子どもたちのアート教室です。Art表現Core核という二つの言葉を組み合わせただけで、アートを通して心と向き合い、自分の核となる部分を強めるという意味を込めました。

始めたのは今から9年前です。自分の子どもが中学生と高校生だった頃の話ですが、友達が家に来て仲良く遊んでいても、コミュニケーションは全てスマートフォンやスマートフォンの短文のようで、自分が子どもの頃とはどこか違うと感じました。「将来、この世代の子たちが自分の会社に入ってきたら一緒にやっていけるのか？」と思い、「もっと違うコミュニケーションの方法があるよ」と伝えたくて「子どもの創造アトリエartco」を始めました。

当時、住谷さんは社員としてグラフィックデザインの仕事をしながら、社外ではアートワークセラピストとして活動していたので、それを会社の事業にしたのです。

■ みんなの「自分らしく」を大切に

住谷さん artcoは「自分らしく表現を楽しむこと」を大切にしています。幼児は1時間のクラスを月1回、小学生は1時間半のクラスを月2回開いて



子どもたちの作品「あつたらいいな♪こんなどころ」。扉の向こうに事務所があります。

います。どのクラスも「導入」→「アトタイム」→「承認」という流れで、自分の良いところを発見し、他人の良いところも認める「承認」の時間を大事にしています。失敗や葛藤も含めた制作のプロセスや素材に触ったり匂いを嗅いだりする感覚、心の解放を大切にして、自分らしく過ごす時間を楽しんでもらえたら嬉しいです。

プログラムは季節に応じて変えています。例えば、この夏は子どもたちにひとつずつ大きな水の塊を渡して氷の彫刻をしてみせました。子どもたちは氷をお湯で溶かしたり、絵の具を垂らして色をつけたりして、思い思いに作品づくりを楽しんでいました。秋には近くの公園で落ち葉や木の実などを集めてきて、作品の素材として使うこともあります。

ストレスを感じている大人にも楽しんでもらえるように、先月から大人向けのクラスも始めました。今後は2カ月に1回程度の開催を予定しています。

■ 自分の領域を持ち、仕事に生かす

萩塚さん 私がartcoを始めた時にイメージした通り、今は20代の社員と一緒に働いています。社員にも年1回、artcoのプログラムを体験してもらいますが、自分の気持ちを話すことですっきりしたり、自分が本当にやりたいこと、好きなことに気付いたりする効果があります。また、社員にartcoの講師を務めてもらったから、プレゼンテーションが上手になりました。子どもにわかりやすく説明する経験が仕事に生きたのでしょうか。

小さな会社なので、社員の個性や能力を生かせる新しい事業を立ち上げ、収益化するという経営ビジョンを持っています。それが社員本人の自信になりますし、得意分野を伸ばしてパフォーマンスを上げ、楽しく仕事ができるようにすることが必要だと考えているからです。これからは自分の領域をしっかり持った生き方をしないと難しい時代になるのではないのでしょうか。会社としても、社員の個性や能力を受け入れた上で組織化することを考えなければいけないと思います。

報告 男女共同参画講座
ジェンダーの視点から考える、防災・減災
「今、私たちにできること」

令和7年9月24日、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の浅野幸子さんをお招きし、ジェンダーの視点から防災・減災の必要性を学ぶ講座を開催しました。

はじめに、大都市を直撃した阪神・淡路大震災の対応などを例に挙げ、発災直後は火災を発生させない、最初の1週間は地域で助け合って専門支援につなぐ、遠方の避難場所を確保するなど、生き延びるための対策を学びました。

次に性別・立場別に生活環境、物資、健康、トイレ・衛生、安全など、避難生活の困難を考えました。育児、介護、衛生などに関わる物資の供給は、必要な人に必要な物資を届ける必要があるため、家庭内マネジメントの経験がある人が運営リーダーに入って意思決定に関わることが大切です。「炊き出しは女性」などと固定的な性別役割で考えず、男性も炊き出しやトイレ掃除に入る、炊き出しには料理人にも入ってもらおうなどして、責任も実務も男女双方・多様な人で負担することが重要です。さらに性暴力の問題にも触れ、災害時は日常にもまして声をあげにくく、普段の防犯対策をしつかり行つて犯罪の機会をなくすことが大事とお話しされていました。

これからは、自分のできること、得意なこと、役割分担し、女性がリーダーとして意思決定に参画していることが重要と学びました。

報告 男女共同参画講座
A・L・L・Y・になりた
い
「LGBTQ+当事者と出会う」

令和7年10月23日、調布LGBT&アライの会理事であり、9月に新著「トランスジェンダー、クィア、アライ、仲間たちの声」を出した小島あゆみさんをお招きしました。



浅野 幸子さん



A・L・L・Yとは、LGBTQ+の「味方、支援者」のことです。小島さんは留学時のホストシスターから同性パートナーとのウェディングフォトを受け取ったことにより、LGBTQ+について無知、無関心だったことに気づき、知ることから始めたそうです。

A・L・L・Yになるには、①知る、②言動を変える、③表明する(活動する)という段階があります。まず「知ることからはじめよう」ということで基礎知識の丁寧な説明がありました。「言動を変える」では、自分の権利が特権であり、権利を与えられていない人がいることに気付く、「ふつう」ではなく「自然」という言葉を使う、本人の同意なく性のあり方を暴露する行為(アウティング)は人権の侵害にあたるのでやってはいけない、LGBTQ+について話題にする、差別には「それは差別です」と伝えるなどです。ともに生きる仲間として、LGBTQ+を知らない人たちとほいと呼び掛けていました。

最後は、日ごる身近な場面で感じた疑問などを含めて活発に質疑応答が行われました。



小島 あゆみさん

報告

クリスマスピアノコンサート

令和7年12月20日、クリスマスピアノコンサートを開催しました。講座が始まる前にボランティアでピアノを演奏する「ブーケ21ピアノンバスター」の方々が出演し、すてきなピアノの音色をプレゼントしてくださいました。



令和8年2月に実施される講座などの案内

申し込み・問い合わせ先

男女平等センター「ブーケ21」
(中央区湊一丁目1番1号)
電話番号 **03-5543-0651**
FAX 番号 **03-5543-0652**

オンライン申し込み



中央区オンライン手続きポータル **検索**

中央区公式LINE



「ブーケ21」からの情報をすばやくキャッチしたい方は、中央区の公式LINEで友達追加をお勧めします。

男女共同参画講座

恋バナあるあるから考える「男らしさ」ってなに？

日 2月20日(金) 午後7時～8時30分
場 オンライン (Zoom ウェビナー)

講 清田隆之さん (文筆業、桃山商事代表)

内 恋愛、夫婦関係、職場など、新聞でさまざまな悩み相談に回答してきた講師から、人間関係にまつわる「男だから」「女だから」という思い込みが起すジェンダーの問題についてお話しいただきます。

対 どなたでも **定** 30人程度 (先着順)
料 無料 **託** なし **掲** 1月15日号

日 日時 **場** 場所 **講** 講師 **内** 内容 **対** 対象など
定 定員 **料** 料金 **託** 託児 (申し込み締切日、定員あり)
掲 「区のおしらせ ちゅうおう」掲載号

男女共同参画講演会

女性のからだと社会のリアル
～医師が見つめる今とこれから～

日 2月28日(土) 午後2時～4時

場 中央区立男女平等センター「ブーケ21」3階 研修室1・2

講 対馬ルリ子さん (産婦人科医・女性支援活動家)

内 あなたの心とからだをむしばむDV・性暴力は意外と身近なところに潜んでいます。医師として日々女性の悩みに向き合っている講師から、身近にある課題や支援などのリアルなお話をお聞きます。

※この講座は、令和7年度の事業協力スタッフ養成講座の参加者が企画しました。

対 どなたでも **定** 30人程度 (先着順)
料 無料 **託** あり **掲** 1月15日号

*申し込み方法など詳しくは広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」または区のホームページをご覧ください。

報告 日帰りバス研修

令和7年度 中央区男女共同参画リーダー研修を終えて



旧白洲邸「武相荘」

令和7年10月15日、研修者31名で町田市にある旧白洲邸「武相荘」と「町田市立国際版画美術館」へ男女共同参画リーダー研修に向かいました。

「武相荘―ぶあいそう」としやれた名を付けた住まいは「かやぶき屋根」の古民家でした。若くして欧米に学び、文化に触れ、日本文化を愛し、女人禁制の能舞台に初めて立ち「かくれ里」をはじめ多くの随筆を書いた正子。戦前戦後の生きざまが「日本の良識」、憲法成立時GHQに「従順ならざる唯一の日本人」と呼ばれた次郎。白洲夫妻の自由で闊達な人生観が展示や蔵書から伝わってきました。土間を床暖房に変えたリビングや正子の執筆部屋の配置がとても興味深かったです。

国際版画美術館は世界でも数少ない版画収集に特化した美術館です。常設展では日本の誇る版画美術「浮世絵」が展示され技法の解説もありました。19世紀の女性浮世絵師・歌川芳玉をはじめ早い時期に女性の活躍があったそうです。

女性活躍が進み、性差のない秩序ある自由な社会実現を学ぶよい機会になりました。

中央区女性ネットワーク副会長 河本佳子



「町田市立国際版画美術館」



各種相談の窓口をご利用ください

ココロ晴れる家

「ブーケ21」SNS相談(愛称: はれるや)

相談員がチャットでお話を伺います。話したことは他の人には知られません。どなたでも、どんなことでも、気軽に話しにきてください。

毎週月曜日～土曜日 午後7時～9時(年末年始を除く)

相談の入口はこちら

「ブーケ21」女性相談

配偶者等や交際相手からの暴力(DV)をはじめ、仕事や家庭、生き方など、女性のさまざまな悩みに専門相談員がお応えします。一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

相談・予約電話番号 **03-5543-0653** (相談無料、秘密厳守)

電話相談(予約不要) 毎週月曜日 午前10時～午後4時(ただし祝日・休日、年末年始を除く)

面談相談(予約制) 毎月第1・5水曜日 第4火曜日 午前10時～午後4時
毎月第2火曜日 第3水曜日 午後3時30分～8時30分
(ただし祝日・休日、年末年始を除く) * 託児付き(要予約)
上記以外の時間でも、男女平等センター開館時は予約を受け付けます。

男性電話相談

職場での人間関係や夫婦関係、配偶者や恋人からの暴力、生き方などさまざまな不安や悩みについて、専門の相談員がお話を伺い、解決の道を一緒に考えます。お気軽にお電話ください。

相談専用電話番号 **03-3495-7770** (相談無料、秘密厳守)

電話相談(予約不要) 毎月第1・3水曜日 午後3時～8時(年末年始を除く)

「ブーケ21」へ来てみませんか?

「ブーケ21」は男女共同参画を推進し、一人一人が自分らしく生きることができる地域社会を目指す拠点施設です。女性、男性どなたでもお気軽にお越しください。

〒104-0043 中央区湊一丁目1番1号 ☎03-5543-0651

◆開館時間 午前9時～午後9時
(12月28日から1月4日までと臨時休館日を除く)

- 東京メトロ日比谷線・JR京葉線 **八丁堀駅下車** A2・B3出口 徒歩3分
- 都バス「東15」(深川車庫前⇄東京駅八重洲口/豊洲駅前/明石町経由) **鉄砲洲下車** 徒歩3分
- 江戸バス「南循環」 **鉄砲洲下車** 徒歩3分
入船三丁目下車 徒歩3分

「北循環」 **八丁堀駅下車** 徒歩3分